

編集後記

徳島赤十字病院 整形外科 武田芳嗣

昨年日本を訪れた日本人観光客は1,300万人を超え、過去最高となりました。円安やビザの規制が緩和されたことが要因と考えられていますが、政治的にはぎくしゃくしている中国からの観光客を含め、多くの国の方々が日本の商品のよさや観光資源だけでなく、日本人のおもてなしに触れ、日本のよさ、日本人のよさを認識してくれているようです。一方、日本から海外、特にアメリカへ留学する学生数は減少の一途をたどっています。いろいろな要因が指摘されていますが、若者の内向き志向もその一つといわれています。日本の中にいけば気心もしれ、居心地がいいのはわかります。しかし異なった文化や考え方に触れ、新たな出会いを経験することで間違いなく世界が広がっていきます。これからはますます日本だけで生きていくことは困難となり、否が応でも世界を意識していかざるを得なくなるでしょう。

さて今回で徳島赤十字病院医学雑誌も20巻を迎えることができました。昨年に引き続き30編の投稿をいただき、充実した内容となりました。本誌では以前から各論文に必ず英文抄録がつけられています。またすべての論文はインターネットで閲覧が可能です。世界のどこかで、だれかがたまたま Tokushima Red Cross Hospital Medical Journal にいきあたり、英文抄録を読んで興味をもってくれることは十分ありうることです。ひょっとしたらそれがきっかけでお互いの交流が始まることだってありえないとはいえません。院内の人に向けて書いたつもりの論文が、世界につながっていくと思うと夢が広がる気がします。

少々妄想癖が過ぎるかもしれませんが、本誌を通じて徳島赤十字病院が世界とつながっていくことを期待して編集後記とさせていただきます。